

要請書

2021年12月1日

鎌ケ谷市市長
鎌ケ谷市教育長

芝田ひろみ様
皆川征夫様

「民主と自治の会」

藤代政夫

戸部光枝

渡邊俊彦

連絡先 445-9144

日頃より鎌ケ谷市民の命と健康を守るため、子ども達の健やかな成長のためご尽力くださり、心より敬意を表します。

以前も「申し入れ」をいたしました。ゲノム編集の作物についての慎重な対応を改めて要請いたします。

「クリスパーキャス9」の技術により、ゲノム編集による医療関係の研究、又農産物・水産物の品種の改良研究が多く行われ始めています。

日本政府はDNAを一箇所切断する行為（ゲノム編集）は自然の突然変異と変わらないとの判断で、ゲノム編集作物の「自然環境への影響調査」「食の安全性検査」「表示の義務」もいらないと通知しています。ですから日本の市場にはGABA トマト、肉厚マダイ、肉厚とらふぐが出始めています。

しかしゲノム編集についてのおおき問題点が指摘されています。

- ① 抗生物質耐性マーカーを入れることによる人間の腸内細菌が抗生物質耐性になる危険性がある。
- ② 標的以外の遺伝子を誤って破壊するオフターゲットの危険性。
- ③ 意図通りゲノム編集できた場合でもその結果染色体破砕、染色体損傷がおきるオンターゲットの問題もありうる。（科学誌ネイチャーに掲載）
- ④ ねらいどおり遺伝子を破壊したにもかかわらず想定外のたんぱく質が創られることもあり、そうすると既存のアレルゲンとは異なるアレルゲンや毒物が生成される危険があります。

これらの危険性があるにもかかわらず安全性の検査もなく市場に出されてしまうと“栽培することによる自然環境の破壊”も“食することによる健康への影響”も多く不安が残ります。

そのような状況下、筑波大学で開発されたゲノム編集 GABA トマトはサナテックシード社により 2021年9月から販売が始まり、昨年12月からは4000人の市民に無料で苗が配布されました。

そしてそのゲノム編集のトマト苗を2022年には障がい児介護福祉施設に、2023年には小学校に無償で提供する計画が立てられています。

国が認めているとはいえ食の安全性を検査していないトマトです。花粉で自然への影響も調査されていないゲノム編集の苗です。そこで以下要請いたします。

- ① 障がい児介護福祉施設への苗の提供、小学校への苗の提供があっても、鎌ケ谷市はこれを絶対に受け入れないよう要請いたします。
- ② 又、鎌ケ谷市の学校給食ではゲノム編集食材を絶対に使用しないと表明し使わないでください。

*12月27日までに文書での回答をお願いします。

秘書広報課

-3.12.-1

第45号受付